

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名：グループホーム 年輪

作成日：平成22年 1月14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	毎月第1月曜日を基本にケア会議を開催。ただ、内容が業務に関する連絡や確認で終わってしまうことが多く、十分に協議するまでには至っていない。また、個々の職員の不安や悩みを受け止める場も、現状では不十分である。	会議を連絡や確認の場に終わらせることなく、事前に議題を柱立てし、時間内でしっかり協議できる内容に変えていく。それと共に、個々の職員の思い(悩みや不安)を受け止めていく場を新たに作っていく。	議題ポストなどを利用し、会議の中で協議して欲しいことを事前に把握する。そして、その優先順位から議題や協議時間を設定し、会議の効率化を図っていく。また、定期的に個人面談の日程を組み、職員との意思の疎通を図っていく。	3ヶ月
2	26	ケアマネが中心に介護計画を作成し、内容を共有しながらケアに当たっている。ただ、介護職員の入居者担当制を取り入れたのが11月からで、また、アセスメント視点の学習不足もあるため、まだまだプランに十分に反映されているとは言えない。	まずは職員個々のアセスメント力の向上を図ることを目標としていきたい。そのために、認知症についての勉強会を定期的で開催し、知識や理解を養っていくと共に、入居者の日々の状態からアセスメントする目を培っていきたい。	これまで同様、定期的な学習の場を確保する。それと合わせながら、自分の担当である入居者をシートを用いながら、実際にアセスメントしていく機会を作っていく。そのことで、プラン作りに主体的に参加していく意識を高めていきたい。	6ヶ月
3	1	ケアの基盤として毎朝唱和しているが、時として、それが形式に終わってしまっている嫌がないとは言えない。また、その文言についても漠然とした理解になりがちであるため、日々のケアにどのように繋いでいくのか分かりづらい面もある。	地域密着型施設としてのグループホームの存在やそこで働く自分たちのあり様を今一度捉え直し、そのことを全職員で共有しながらこれまで掲げられてきた理念の文言の見直しを図っていければと思っている。	介護保険におけるグループホームの位置付けや地域密着型としてのグループホームのあり様、そして、その職員として求められる私たちの姿を学習する機会を設定する。その中から、自分たちの言葉で理念の文言を作っていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。